

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 26 年 6 月 19 日 (2014.6.19)

【公表番号】特表 2011-523097 (P2011-523097A)
 【公表日】平成 23 年 8 月 4 日 (2011.8.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-031
 【出願番号】特願 2011-512592 (P2011-512592)
 【国際特許分類】

G 0 2 C 7/04 (2006.01)

【F I】

G 0 2 C 7/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 26 年 4 月 8 日 (2014.4.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 4】

「e 値」は、完全に球状な角膜をゼロの値で示す、角膜の離心率の尺度を言う。負の e 値は急勾配な中間の縁を有する平坦な中央部分（扁平な表面）を示し、正の e 値は中央において急勾配で周辺で平坦な角膜（扁長の表面）を示す。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 7】

複数の視覚ゾーン 2 0 1、2 0 2、2 0 3 はまた、次第に急勾配になるには負の離心率（e）値を、次第に平坦になるには正の離心率（e）値を有する非球面曲率で置き換えることができ、軸方向厚さに徐々に増大および減少する効果を有し、半径方向外側に圧力コントロールゾーン 2 2 に接続する。ソフトコンタクトレンズ 1 0 は、前記のようにしなやかで、角膜表面に適合し、ベースカーブ 3 0 に加え前面視覚カーブ 3 1 は共に視覚ゾーン 2 0 とその分割ゾーン 2 0 1、2 0 2、2 0 3 で所望の軸方向厚さを形成するのに有効である。視覚ゾーンで徐々に増加または減少する軸方向厚さを形成することは、当該技術分野で既知の方法で行うことができる。たとえば、半径方向外側に広がる徐々に減少する厚さは、次第に平坦になる背面カーブ 3 0 または次第に急勾配になる前面カーブ 3 1 を提供することにより（あるいは前面および背面カーブの両方を組み入れることにより）形成できる。次第に平坦になる背面カーブは正の e 値を有し、次第に急勾配になる前面カーブは負の e 値を有する。徐々に増加する厚さは、逆のやり方で形成される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 5】

あるいは、ベースカーブ 3 0 に正の e（離心率）値または前面視覚カーブ 3 1 に負の e（離心率）値を組み込むことにより、遠視用の中央の倍率（度）を変化させずに、コンタ

クトレンズ 10 の幾何的中心を最も厚い部分に、そして視覚ゾーン 20 の外縁を最も薄い部分にすることができる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

あるいは、ベースカーブ 30 に負の e (離心率) 値または前面視覚カーブ 31 に正の e (離心率) 値を組み込むことにより、遠視用の中央の倍率 (度) を変化させずに、コンタクトレンズ 10 の幾何的中心を最も薄い部分に、そして視覚ゾーン 20 の外縁を最も厚い部分にすることができる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0075

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0075】

位置合わせカーブ 50 のサジタル高さまたは AEL (軸方向縁隆起) は、平均の K (K_M としても知られる) : $(\text{垂直 } K_M + \text{水平 } K_M) / 2$ により求められる。同様に中央の平均 K は、角膜の離心率 (e 値) により中間の周縁の曲率半径を推定するのに再計算され、位置合わせゾーン 26 が角膜 12 に接触する点に一致する。角膜の離心率は、周縁の角膜の平坦さの尺度であり、ゼロは球面の形状を示し、1.00 は放物線形状を示す。普通の角膜は、ほぼ $e = 0.5$ の離心率を有する。